

# 結婚しようよ

作

弦卷

啓太

登場人物表

◎ 新婦／犬川家

犬川 良親（いぬかわよしちか）

漁師

犬川 明子（いぬかわあきこ）

良親の妻

犬川 凧子（いぬかわなぎこ）

花嫁／良親と明子の娘

犬川 潮（いぬかわうしお）

凧子の弟／中学生

犬川 則（いぬかわのり）

良親の母

犬川 波（いぬかわなみ）

良親の妹

犬川 竜樹（いぬかわたつき）

波の夫

犬川 海斗（いぬかわかいと）

波と竜樹の息子／小学生

◎ 新郎／猿田家

猿田 勝蔵（さるたかつぞう）

農家

猿田 文（さるたあや）

勝蔵の妻

猿田 耕作（さるたこうさく）

花婿／勝蔵と文の息子

猿田 森彦（さるたもりひこ）

勝蔵の父

猿田 草子（さるたそうこ）

耕作の姉

◎ 結婚式場スタッフ

赤石（あかし）

フロアマナージャー

橋渡（はしわたり）

司会

神田川（かんだがわ）

料理人

遠藤（えんどう）

式場スタッフ

◎ 出席者

発起人① 高木

発起人② 工藤

発起人③ 甘利

新郎側友人① 桜井

新郎側友人② 斉藤

新郎側友人③ 吉田

新婦側友人① 木村

新婦側友人② 西野

新婦側友人③ 浜崎

新婦友人③の子供 亜夢瑠（あむーる）

新婦の生徒① マナ

列席者 坂本

凧子の勤務する学校の校長

子供の時の凧子

舞台は結婚式場の厨房。

そこは結婚式場兼、葬式斎場の玉姫典(たまひめてん)。これから地元の犬川家、猿田家両家による結婚披露宴が行われる筈だった。

物語は披露宴の開始時間直後から始まる。回想場面等が挟まるが結婚式場の別の場所への転換などは行われない。

厨房の一角の倉庫、飲み物が貯蔵されてる場所に犬川良親が閉じこもっている。

その外で、出てくるように説得をしている犬川家の家族。明子、凧子、潮、則、波。そして新郎の耕作。

会場スタッフである赤石、遠藤がハラハラと見守っている。厨房の主人である神田川は不機嫌な顔。

重苦しい、行き詰まった空気。

橋渡がやってくる。

橋渡 マネージャー。

赤石 ああ。…どうだ？

橋渡 みなさんお待ちかねです。

赤石 だよなあ、やっぱり。

橋渡 時間、過ぎちゃいましたよ。

赤石 分かってるよ。

橋渡 どんな感じなんですか？状況は？

赤石 こう着状態だ。なんせ、犯人の要求がまだ提示されてない。

凧子 お父さん！良い加減出てきてよ！

遠藤 大川様、新婦様はそろそろお着替えされた方が。

波 凧子、その方が良いんじゃない？

凧子 もうちよっと、

橋渡 なるほど…。

赤石 この式場のフロアマネージャーになって20年、こんなことは初めてだよ。

橋渡 どうします？始めちゃいますか？

赤石 新郎も新婦も、新婦側の親族がごそつと居ない中で？なんのための披露宴だよ。

橋渡 でもこのままじゃ…。

赤石 つないで。

橋渡 つなぐ？

赤石 橋渡君が。

橋渡 どうやって。

赤石 司会者でしよう？なんか座持ちの良い小話でもして場を繋いで。その間になんとかお父さん説得するから。

橋渡 無理ですよ。

赤石 橋渡君の結婚エピソード話してきなよ。

橋渡 僕バツ2ですよ。喜ばれませんよ。

神田川 (ゴホン)

赤石 あ、ああ、すみませんね、神田川さん。

神田川 次の皿の準備ができねえよ。

赤石 神田川さん！お客様に聞こえる…！

耕作 あの…。

赤石 はい。

耕作 すみません、こんなことになってしまつて。

赤石 いえいえ。いろいろご事情があるでしょうから。全ての参加者が、心から祝福の

気持ちで参加できる結婚式。がモットーですので、ウチは。

耕作 もう開始時間ですよね。

赤石 ええ。予定では新郎新婦がまさに入場する時間ですね。

耕作 みんな、様子が変だと思つてるんじゃないですか？

赤石 おそらく。

耕作 出席者の中に、僕の友人の桜井、斉藤、吉田というのがいるんです。3人なら会

場を退屈させない方法があるかもしれませぬ。呼んでもらえますか？

赤石 桜井、斉藤、

耕作 吉田です。

赤石 分かりました、お連れします。よし行こう。

赤石、橋渡、去る。

風子 ねえ。お父さん、聞いている？

潮 親父、出てきたら？

波 兄さん、大人気ないよー？

風子 こんな、恥ずかしい！

波 娘に恥かかせる気ー？

風子 お母さんからなんか言つて？

明子 …。

潮 親父、なんか言えよ。

耕作 お父さん。

則 良親、

良親 …いやだ。

風子 はあ？

良親 いやだ。

風子 なにが嫌なの。

良親 出席しない。

風子 ……なに言ってるの？

良親 俺は出席しない。

風子 バカ言わないで。

良親 そんなにやりたいなら、俺抜きでやればいいだろう。

風子 そんな訳にく訳ないでしょう！ねえ！

遠藤 そうですねえ(ウフフ) …花嫁のお父様が出席拒否というのは…あまり聞いたこ

とないですね(ウフフ) …。

凧子 当然じゃない！  
良親 記念すべき第1号だ！！  
凧子 ふざけないで…。なんなのよここにきて！  
良親 放っておいてくれ。  
神田川 そういう訳にはいかねえなあ。

耕作 ですよ、すみません。  
凧子 ずっとそこにいるわけにいかないでしょ?! 風邪ひくわよ!!  
良親 ひかん!!  
凧子 なんなのよ…もう…。

竜樹と海斗が入ってくる。

竜樹 どう? お兄さん、  
波 (首振り) ダメ。  
竜樹 どうしちゃったの?  
波 うーん、  
海斗 おじさん、まだ出てこないの?  
波 そう。  
海斗 どうして?  
波 どうしてだろうねえ。海斗は真似しないでね。

赤石が友人3人を連れてくる。

赤石 お連れしました。  
耕作 いいところに来てくれた。  
桜井 おお、なんだ、みんなこんな所にいたのか。  
斉藤 どうした、まだ始まらないのか?  
桜井 なんかつた?  
耕作 3人に頼みがあるんだ。  
桜井 なんだよ。  
耕作 今日、余興を披露してくれるんだよな?  
桜井 おう。楽しみにしとけよ。(ヒーローポーズ)  
斉藤 サプライズも入ってるからな。  
桜井 大変だったんだぞ。稽古に2ヶ月かけたんだから。  
斉藤 会場大泣き。  
耕作 頼みがある。  
桜井 おう。  
耕作 今やってくれ。  
桜井 なんだそんなことか、…ええ?! 今?!  
耕作 頼む。  
桜井 いや、それは…。

耕作 みんな退屈してるんだ、頼む。  
桜井 だって、ヒーローショーだよ?!  
耕作 お前達しかいないんだ。  
桜井 なんて、  
耕作 風子のお父さんが、閉じこもっちゃって。  
斉藤 風子さんのお父さんが?  
風子 そうなんです。ご迷惑おかけしてます。  
耕作 だから披露宴も始められないんだ。  
桜井 ええ。  
風子 私からもお願いします。  
斉藤 でも、サプライズが…。  
風子 サプライズ…?  
桜井 式場に現れた怪人が、花嫁を攫うんです。  
風子 ああ。  
桜井 ヒーローでも太刀打ちできなくて、これは花婿の力を借りるしかないって展開になるんです。  
風子 へえ。  
斉藤 斬新でしょ?!  
桜井 そこで耕作に舞台上に上がってもらって、愛の誓いを果たしてもらおう、って流れだったんで…。  
斉藤 感動するでしょう?  
桜井 だから、俺たちだけでは…。  
耕作 ……そんな…。  
桜井 3人だけでやっても白けるだろ。  
耕作 そこをあえて!  
桜井 なんの「あえて」だよ。  
耕作 頼む、会場の空気が冷え切ってしまう前に。  
斉藤 誰か、代わりがいれば、まだなんとかなるけど…。  
風子 代わり?  
斉藤 風子さんの、花嫁の代わり。

間。

則 風子 あたしの出番だね。  
波 風子 !おばあちゃん!  
則 風子 !母さん、本気?!  
波 息子の不始末は、母親が責任取ろうじゃないか。  
則 風子 でもおばあちゃん、アクションショーだよ。  
風子 こう見えて、昔は宝塚も受験したんだ。  
波 そうなの?!  
則 風子 母さん!その噂、本当だったの?!  
耕作 信じられないだろ?  
桜井 桜井、これなら!  
耕作 う、うん…。

吉田 ちよつと待ちな。  
齊藤&桜井 リーダー、  
吉田 ばあさん、わかってんのか？遊びじゃないんだぜ？演技ってのは。  
則 そっちこそ。年季の違いを見せつけてやるよ、ひよっこ。  
吉田 (ジロリ)  
則 (ジロリ)  
風子 おばあちゃん…。  
桜井 リーダー…、  
吉田 …なんて目えしやがる。ただのババアかと思ったら、こいつは飛んだ女優だぜ。  
齊藤 リーダー！  
吉田 台本を渡しな！  
齊藤 は、はい！（懐から台本を渡す）  
吉田 10分時間をやる。段取りとセリフを頭に叩き込みな。  
則 その必要はないよ。  
桜井&齊藤 え…？  
則 (台本を齊藤に渡し) もう入った。  
風子 おばあちゃん…！！  
吉田 ふ…ゾクゾクしてきやがる。よし、これで行くぞ！  
桜井 リーダー！新郎の代わりは？！  
吉田 ああん？  
桜井 新郎の代わりもないいと。  
吉田 坊主、やれるか？  
海斗 うん、やる。  
竜樹 海斗！無理ですよ海斗には、まだ。  
海斗 大丈夫だよ。  
竜樹 やめなさい。  
海斗 やる！  
竜樹 みんなの前で戦うんだぞ？  
海斗 できる！  
桜井 お父さん大丈夫ですよ。この子の役とはそんなにアクションしませんから。  
竜樹 しかし、  
吉田 やれるよな、坊主。  
海斗 うん。  
吉田 手加減なしだ。  
海斗 のぞむところだ！  
吉田 …いい目だ。

橋渡、入ってくる。

橋渡 マネージャー、  
赤石 おお、どうだ？  
橋渡 言われた通り、僕の一回目の結婚話で繋いでおきました。  
赤石 盛り上がった、会場？  
橋渡 キンキンに冷えています。

赤石 離婚の話なんてするから！  
橋渡 自分がしろって言ったんでしよう？！  
耕作 …頼む。  
桜井 任せる！  
斉藤 このために2ヶ月稽古してきたんだ。

桜井 斉藤吉田、則、海斗、橋渡去る。

竜樹 大丈夫かな…。  
耕作 すみません、海斗くんまで。でも安心して下さい。あいつら、上手にこなすんで。イベントとかでも、その場の子供と、  
竜樹 海斗、空手黒帯なんです。

耕作 …。  
竜樹 加減を知らないんです。怪我させなきゃいいけど…。  
赤石 あの…。

赤石 すみません、本当。  
赤石 いえ、大丈夫なんですか？

赤石 はあ…多分。それより、困りますよね、これだと…

赤石 はは、そうですよねえ。これだと、ご出席された皆様にお水だけでお食事していた  
赤石 だくことにもなりますし…。

赤石 お父さん！ほら、式場の人困るから！

赤石 …。  
赤石 迷惑かけないで！子供じゃないんだから！

赤石 そうだぞー、親父。

赤石 凧子…。

赤石 (手で制止し) お父さん、何が不満なの？

赤石 …。  
赤石 言ってよ。言ってくれなくちゃわからないでしょ？

赤石 …。

赤石 声(橋渡) えー会場の皆さん、大変お待たせしておりますが…あ！ああ！なんだお前達！

赤石 あっちも始まったみたい。

赤石 みんな、頼むぞ。

別空間として、式場の舞台にいるみんなが現れる。

齊藤 はーはっは、このお婆あさんは我々、悪の組織がいただいた！

則 (熱演) ああ！誰か！誰か！助けてえええええ！

吉田 (棒読み) はーはっはっは。助けを呼んでも、無駄だ、観念しろ、この世界は、

波 我々悪の秘密結社が支配する、

波 あの、演技するとイメージ変わるね。

耕作 でしょう？！

波 いや、そんな良い意味じゃなくて。



海斗、則帰ってくる。橋渡も。

海斗 ただいま。  
竜樹 おかえり。  
海斗 やっつけてきたよ。  
橋渡 マネージャー、  
赤石 盛り上がったか？  
橋渡 とつても。ただ、  
赤石 ただ？  
橋渡 犠牲者が出ました。  
赤石 やはり…。  
橋渡 まだ出てこないんですか？  
赤石 うん。  
橋渡 限界ですよ、会場。  
赤石 わかつてる！  
橋渡 僕一人じゃ場を持たせられません！

森彦、すごい勢いで入ってくる。草子が後を付いて来てる。

森彦 耕作！  
耕作 おじいちゃん、  
草子 おじいちゃん、こつちに入っちゃダメだつて。  
森彦 どうしたあ！披露宴はまだ始まらないのか？！  
耕作 ごめん、おじいちゃん、もう少して始まるから。  
森彦 なんだ、まだ待たなきゃならんのか。う、うずうずしとるんだーワシは！喉が、  
耕作 喉が早く早くとせかすんじゃー！  
森彦 え？  
耕作 分かってる、おじいちゃん歌だね。すぐに歌ってもらうから、もう少し待つて。  
森彦 ふふ：驚くなよ！耕作！感動的な披露宴にしようと、とつておきのセリフを考え  
耕作 て来たんだー。  
森彦 セリフ？  
耕作 わかった、わかったから、席で座って待つていて。草子、  
森彦 ほら、おじいちゃん、戻るよ。みんなに迷惑でしょ。  
耕作 早く始めるよ！耕作！  
森彦 分かった、分かりました！  
草子 喉がな、喉がせかすんじゃ、せがむんじゃ、早く鳴らせろー！と。  
草子 おじいちゃんホラ！

草子、なかば引きずるように森彦を連れて去る。

赤石 かなり意気込んでいらつしやいますね…。  
耕作 こうした祝いの席だといつもなんです。歌うのが好きで…。  
橋渡 ! どうでしょう?! お爺様に歌って間を繋いでおいてもらうというのは?!  
耕作 ダメです!  
赤石 ダメですか? でも、  
耕作 マイクを握ったら離さないんです。歌い出したら、3、40分は覚悟しないと…。  
赤石 そんなにですか…。

凧子 すみません、発起人の三人を呼んで来てもらえますか?  
赤石 発起人。えーと、  
赤石 高木と工藤と甘利です。  
凧子 3人が?  
赤石 その三人なら、会場を退屈させないでいられるかもしれないです…!  
橋渡 分かりました。  
赤石 僕呼んできます。  
赤石 頼んだ。

橋渡、去る。

遠藤 お父様! 本当になにか私どもに、  
波 大丈夫です。ちよつとねえ、なんていうか、パニックになっただけです。  
遠藤 パニック。  
波 時々あるんです。ねえ、  
則 そうですね。  
波 中学生の頃だっけ。お父さんが、ホラ、兄さんが飼ってた亀を。  
遠藤 亀?  
則 ああ、あつたねえ。  
波 兄さんが飼ってた亀を勝手に海に返したことがあつたんです。  
遠藤 はあ。  
波 兄さん、シヨックのあまりトイレに籠って出てこなくなっちゃったんです。  
則 あの時は…丸一日出てこなかった。  
波 ははは。だせえなあ親父。  
遠藤 その次はカラスだっけ?  
波 カラス?  
波 怪我したカラスを捕まえて。大切に看病して、家で育ててました。伝書鳩にしよ  
凧子 うと思つていたみたいなんです。  
波 それもおじいちゃんが?  
則 そう。お父さんが学校に行ってる間に。  
波 元気よく羽ばたいて行つたっけね。  
則 二度と帰ってこなかった。  
波 その時は48時間出てこなかった。トイレに籠ったきり。  
則 ははは。だせえなあ親父。  
波 恩知らずなカラスよ。  
良親 そんなことない! あいつは時々俺のところに戻ってきた! 学校に行く時とか!



間。

風子 勘弁して…なによそれ。ものじゃないのよ私は。

耕作 お父さん、

耕作、

お父さん、やっぱり、僕に不満があるんですよね。

…。

耕作 言ってください。どこが不満か。どこが、お父さんにとって我慢らないか。頼りないか。

良親 …そういうことじゃ、ない。

耕作 僕、直します。お父さんのお眼鏡に叶うよう。努力します。どこが不満なんですか？言ってください、遠慮なく。

波 …そういうところじゃないかな。

潮 え？

良親 耕作君の問題じゃないんだ…。

耕作 なら、

良親 私の問題だ。私の、個人的な問題なんだ。だから、ほっといてくれ。

風子 なおさらそんな訳にいかないでしょ。みんなだって待たせてるんだから。

橋渡、入ってくる。発起人3人を連れてくる。

橋渡 マネージャー。お連れしました。

赤石 ありがとうございます。じゃあ会場の方よろしく。

橋渡 もう無理ですって、

赤石 二回目の結婚小話でもしてなよ！ほら、司会者だろ！（橋渡を押し出す）

高木 おお、風子、

工藤 ちよつとどうしちゃったの？披露宴、まだ始まらないの？

甘利 もうお腹ペコペコだよ。

神田川 ホラ。

赤石 神田川さん！

風子 ごめんねちよつと立て込んで。もうすぐ始められると思う。

高木 そうか。

工藤 みんな待ちくたびれてるよ。

甘利 もうお腹ペコペコ。

高木 面白かったけどな、ヒーローショー。

工藤 おばあちゃんがすごい熱演で。

甘利 宝塚みたいだった。おかげでお腹ペコペコ。

風子 あのね、3人に頼みがあるの。

高木 頼み？

工藤 今から準備するから、私たちが会場に戻るまで、場を盛り上げて欲しいの。盛り上げる？

風子 お願いできないかな…もう一度、コント…!

間。

耕作 コント？

風子 この三人、高校生の時、お笑いトリオだったの。

耕作 そうだったんですか？!

風子 メジャーデビューを目指していた。上川地区では笑いのドリームズカムトゥルー  
って人気だった。

高木 昔の話だよ。

風子 高木君、お願い。

工藤 もうやめたの、お笑いは。

風子 どうして？

甘利 わかってるんだろ？風子。

風子 じゃあ、やっぱり。

甘利 そう。…おれが捨てられたんだよ。

間。

風子 甘利君…。

高木 捨てたわけじゃない。

甘利 捨てたる。

工藤 違うの。

甘利 どう違う？3人でてっぺん目指そう、笑いで天下取ろう、そう言ったのに…。

工藤 そう。いつのまにか、私たちは付き合っていた。

甘利 ほらみる。おれを騙したんだ、お前たちは。

工藤 違う！

高木 騙してなんかいない！

甘利 騙しただろう！

高木 違う…。自然な成り行きだったんだ（工藤と手をつなぐ）。

工藤 とつても。

甘利 それが俺を捨てた、っていうんだ！！

工藤 違う！！

高木 捨ててなんか！

甘利 じゃあなんなんだよ！

工藤 余っただけよ…。

波 なんか、かえって惨めねえ。

高木 そう。あぶれたんだ、お前は。捨てられたわけじゃ。

風子 甘利君、お願い。3人とも、お願い。今日一回だけ。一回だけ再結成してもらえ

ないかな！

高木 風子…。

工藤 私たち…。

瓜子 あんなに、輝いてたじゃない。3人とも生き生きしてたじゃない！お願い。もう一回だけ。私を助けると思っ、て、お願い！！

間。

高木 ……どうする？

甘利 瓜子にこうまで言われちゃあな。

工藤 甘利君…やろう、もう一度。

工藤 工藤。

私たちが、ダメだった。二人だけで何回もオーディションを受けた。夫婦漫才や、いろいろなジャンルにチャレンジした。でも、全部ダメだった。甘利君がいた時のように、ネタが弾まなかった。やっている私たちですら、魅力がないって分かっていた。

…。

高木 甘利 お前が必要なんだ、甘利。

そう。必要なの。どんなにどついても、鋭い暴力的な突っ込みをされても笑って見ていられる、ちっとも胸が痛まない稀有なあなたという人が必要なの。

間。

甘利 ったく、しょうがねえなあ。

高木 甘利…。

工藤 甘利君、

瓜子 甘利君、じゃあ、

半端なドツキは無しだぜ。

工藤 もちろん！

瓜子 ありがとう！！

高木 早速ネタ合わせだな。

瓜子 お願い。

橋渡、来る。

橋渡 マネージャー、そろそろ限界です。

赤石 ご苦労。会場は？

橋渡 僕の2回目の結婚話をしました。慰謝料のあたりからなんとも言えない重い空気に。

赤石 オーライ。…といった空気らしい。

高木 のぞむところだ、な？

工藤 そうね。

甘利 早く終わらせようぜ。腹がぺこぺこでしょうがねえや。

瓜子 お願い。  
高木 行こう。(手を差し出す)  
工藤 うん。(握る)  
甘利 ああ(手を差し出す)  
工藤 え…？(手を引っ込める)  
甘利 あ…。

3人、去る。橋渡もついていく。

赤石 これです。少し時間が稼げますね。  
遠藤 さ、新婦様はドレスの準備を。  
赤石 そうですね、どうぞ控え室へ。もう限界です。  
瓜子 でも、  
耕作 行っっておいで。  
瓜子 だって、  
耕作 準備しておいた方がいいよ。大丈夫、お父さんは、僕が説得するから。  
明子 : そうそう。瓜子は花嫁なんだから。主役なんだから、ちゃんと準備しないと。  
瓜子 お母さん。  
明子 いざとなったら、お父さん抜きでやりましょう。  
一同 え。  
明子 本人がそれで良いって言うんだから。  
瓜子 お母さん、  
明子 わがまま聞いてたら、ますますつけあがるから。ほら、行きなさい。  
耕作 瓜子、本当にここは大丈夫。俺に任せて。  
瓜子 …。  
遠藤 こちらです。

瓜子、遠藤とともに去る。

耕作 お父さん…話してくれませんか？  
良親 …。  
耕作 瓜子の前では、話せない話ですか？  
良親 …。  
耕作 …やっぱり、家のことですよね？

間。

耕作 僕の家が、猿田家の人間だから。だから、結婚を認められない。認めたくない。そう  
良親 …。  
耕作 …。

潮 波  
耕作 良親 耕作

いうことですよね？  
でも、もう誓いあった訳だし。  
いまさら。  
僕が、お父さんの後を継いで、漁師になるって言わなかったから、  
そういうことじゃない。  
じゃあ、

猿田家の人間が入ってくる。勝蔵、文、草子。それに坂本。坂本は常に微妙に震えている。

勝蔵 耕作

ここか。良親が立てこもっている、って場所は。  
父さん。

波 耕作

こりやどうもみなさん。耕作、どこだ良親がいるのは？  
すみませんね、うちの兄が。

良親 勝蔵

おーい、そこか？！  
…！勝蔵か。

良親 勝蔵

そうだ。何やってるんだ？  
なんだって良いだろう。

良親 勝蔵

良親、どうしたんだ？  
…。

勝蔵 良親

もう披露宴始まるぞ。みなさん席に着いて待ってる。何をいじけているんだ？  
いじけてなんているか。

明子 波

いじけてるんです。  
いじけまくりです。

文 明子

そうなの？

文 明子

はい。あなたからも何か言ってやってください。  
私は…。

耕作 勝蔵

さっきの、ドレス踏んづけて無様に転んだやつか？  
父さん。

耕作 勝蔵

あんなの。気にすることないだろう！お前のドジは今に始まったことじゃない。  
余計なお世話だ！

坂本 勝蔵

先生からも何か言ってやってください。  
うむ。

良親 勝蔵

先生連れてきたのか？！  
ここにいる。

良親 勝蔵

なんで先生まで！  
仕方ないだろう。お前が閉じこもって聞く耳持たない、って言うから。説得して  
もらおうと思ってるな。先生だって、披露宴でスピーチするのを楽しみにしてくれ  
てたんだぞ。さ、先生。

坂本 勝蔵

ここかい？猿田くん。  
その扉の向こうです。

坂本 勝蔵

犬川良親くん。

良親 坂本

…はい。



明子　そうですね。ね？  
波　確かに。ねえ？

草子　わたし、独身ですけど。  
波　あらいけない。

文　そんな日にどうして？こんなぶち壊すような真似。凧子ちゃん、可哀想。  
良親　…。

文　わたし、嬉しかった。耕作が選んだ人が、犬川さんのお嬢さんだって知って。もう一度、犬川さんと仲良くなれることになって。

波　もう一度？  
龍樹　いろいろあったの。

龍樹　いろいろ？  
坂本　えー、新郎の耕作君のご両親、勝蔵さんと文さん、それに新婦凧子さんのお父上

龍樹　良親さんは3人とも我が校の卒業生、同級生でありまして、えええええええ。

潮　そうだったんだ。

坂本　3人はそれは仲良く、勉学に励み、友情を育み、  
龍樹　そうだったんですか…犬川の家と、猿田家にはいろいろと因縁がある、とは聞いてたけれど。

則　そう。昔からね。  
波　育まれたのは友情だけじゃなく、

龍樹　え？  
明子　愛情も芽生えてた、と。3人、それぞれに。  
龍樹　え？3人？

間。

潮　ひとり、あぶれるね。

間。

龍樹　えええええええ。

海斗　おとうさん、どうしたの？  
潮　うわあ、だせえなあ、親父。

良親　違う！誤解だ！！

坂本　特に良親君は文さんに何度も熱烈なアタックを、  
良親　先生！何故知ってる！  
耕作　父さん…。

勝蔵　俺だって胸が痛んだ。  
波　でも？

勝蔵　とつても自然な成り行きだったんだ。  
波　良い性格。

文　だから、嬉しかった。高校を出て以来、犬川君が私たちのことをなんか避けるよ

文 良親

うになつて、疎遠になつて、いつのまにか連絡も取らないようになって：小さな町なのに、ずっと遠くに行つてしまつた気がしてた。だから：耕作の話聞いた時、また仲良くなれる、今度はもつと近い存在に、友達よりもつと近い存在、『家族』になれる、そう思えて、嬉しかった。：。

なのにな。ねえ、ダメなの？それは叶わないの？

橋渡、入ってくる。

橋渡

赤石 マネージャー！もう限界です！！

赤石

し！今良いところなんだ！

橋渡

いいところ？！

赤石

お客様は？

橋渡

コントで温まりました。

赤石

良かった！

橋渡

男女3人のうちひと組カップルが誕生してしまつたことで、余つた男がどンドン

赤石

ひどい扱いを受けるコントです。

赤石

ああ、そう。

橋渡

惨めなもんですよ。それより！

赤石

なんだ、

橋渡

披露宴、始めないと、もうやばいですよ。

赤石

え？（時計を見る）ああああ！

橋渡

今日このあともう一つありますよね？

赤石

お通夜が入ってる。

橋渡

どうするんです！

赤石

仕方ない。始めよう。

橋渡

良いんですか？

赤石

20年このマネージャーをやつてきて、満足できない披露宴をしたことだけは

赤石

一度もない。みなさん！！

竜樹

なんですか？

赤石

会場に戻つてください！そろそろ始めないと、さすがに、

潮

そういえばお腹減つた。

文

でも、

赤石

お母様、お願いします。

文

犬川様抜きでは、

明子

構いません。

文

明子さん、

明子

ウチの人抜きで構いません。でしょ？いいのよね？あなた。

良親

：ああ。

文

犬川君。

明子

始めましょう。いいんですよ。本人だつて構わないって言つてるんだから。始め

海斗

て下さい。さあ、みんな席に戻るわよ。

波

ケーキ食べれる？！

波

もう少しね。

皆バラバラと会場に戻る。

坂本 終わりがかね？

草子 これからです、校長。

勝蔵 文。

文 …。

明子 文さん。

明子 明子さん。

文 …。文さんのせいじゃないから。

明子 …。

明子 (ハア) そんな訳ないでしょう？

橋渡 マネージャー、今から始めても、終わるのは2時間後ですよ？

赤石 わかつてる。

橋渡 じゃあどうするんです？

赤石 …。ちよいちよい端よっていこう。

橋渡 そんなことできるんですか？！

赤石 …。こっそりな。(耕作に) あああ、新郎はこちらに！神田川さん！

神田川 なんだ。

赤石 一つ頼みごとが。

神田川 なんだ。

赤石 今、何をやってます？

神田川 大根の桂剥きだけど。

赤石 会場でやってもらえますか？

神田川 !バカいな!

赤石 お願いします!

神田川 断る!

赤石 この通りです!(テヘ)

神田川 なんの通りだよそれは。

橋渡 神田川さん、僕からもお願いします!

赤石 ほんの少し、新郎新婦入場までお客さんの目を惹きつけていてくれれば。

神田川 だめだって、見て面白いもんじゃねえし。

橋渡 自信を持って!

赤石 お願いします!神田川さんを男と見込んでの頼みです!

間。

神田川 男と言われちゃあ、受けない訳にはいかねえなあ。

赤石 ありがとうございます!

橋渡 僕、目一杯盛り上げますね!

赤石 じゃあ頼む。最高のショーにしてくれ。

橋渡、神田川も行く。  
閉じこもった良親の他に赤石、耕作だけが厨房に残る。

耕作 マネージャーさん。  
赤石 大丈夫です。お任せください。  
耕作 すみません…。  
赤石 気になさらないで。お二人に相応しい、最高の結婚披露宴にいたします。  
耕作 ありがとうございます。  
赤石 それで、一つご相談が。  
耕作 なんでしょう？  
赤石 お客様も相当お待ちになっておりますので、テンポの良い進行を心がけたいな、と。  
耕作 はあ。  
赤石 どうでしょう？新郎様から見ても、ここ、少し短めでも良いなんて箇所ありませんか？披露宴のプログラムで。  
耕作 短め？  
赤石 例えば、

森彦、入ってくる。追って草子。

森彦 耕作！まだか！披露宴はまだ始まらないのか！  
耕作 おじいちゃん！  
草子 耕作、あんたも抑えて！  
赤石 おじいさま？！  
耕作 はい！僕の祖父です。  
森彦 歌は！わしの歌はまだか！  
草子 もうすぐ！おじいちゃんもうすぐだから！  
耕作 ごめんね待たせて。もう少しで歌だから座って待っていて。  
森彦 歌うぞ！わしは。  
耕作 うん。楽しみにしてる。  
森彦 歌うんだ！わしは！  
耕作 うんうん。  
草子 この海を越えて、利尻まで響く歌を…！  
わかった！おじいちゃんわかったから！越えて！海でも山でも！

森彦、草子に引きずられつつ、去る。

赤石 …。  
耕作 で、なんでしたっけ？  
赤石 いえ…歌は省略しないほうが良いようですね。

遠藤に連れられて、凧子入ってくる。付き添いの亜夢瑠とマナも。(二人とも女の子) 浜崎も出てくる。

遠藤 準備ができました。

赤石 よし！始めるぞ。

遠藤 会場は？

赤石 神田川さんが桂剥きでつないでいる。

遠藤 え?! (覗く) 本当だ…。みんな、感心して眺めている。

耕作 凧子…

凧子 お父さんは？

耕作 (首振る)

遠藤 え？

赤石 説得できなかった。

遠藤 じゃあ…。

凧子 (じつと良親が閉じこもっているほうを見る)

赤石 皆様と協議させていただきまして、お父様は…欠席ということで進めさせていた

凧子 だきたく、

赤石 分かりました。

凧子 ご相談なんです、あの、お手紙のコーナーを、

赤石 ですよね…。無しにします。花束を渡すだけで。

耕作 分かりました。

凧子 ごめん。

耕作 なんです。いいの。仕方ないわ。

耕作 俺が…、

凧子 よろしくね、二人とも。

耕作 先生、おめでとうございます。

マナ ありがとうございます。

浜崎 ああ、凧子さんの教え子なんだ。

マナ はい！

遠藤 どう?いつもの先生と比べて。

マナ めちゃくちゃ綺麗です。

凧子 大げさ。

マナ 全然怖くなさそう。

遠藤 え?

凧子 マナ、

マナ 本当に。いつもビビってる男子もこの姿みたら腰をぬかすんじゃないかな。

凧子 そう。

マナ 私、将来先生みたいな花嫁になります。

凧子 本当?

マナ はい。先生みたいに、みんなが祝福してくれるような花嫁さんに。

凧子 …ありがとうございます。ちゃんとエスコートしてよね。

マナ はい。

浜崎 よろしくね。うちの子小さいから。

マナ わかりました。任せてください！  
お姉さん、とっても綺麗。

風子 ありがとう。

浜崎 このお姉ちゃんにちゃんと付いて行くのよ？

亜夢瑠 分かった！

浜崎 お願いな。

マナ はい。

浜崎 …お父さん、出てきてないの？

風子 みたい。

浜崎 海の男は偏屈だって、本当ねえ。

風子 いつの話？ウチの人は特別。

浜崎 ちよっと懂れるけどね。

風子 はあ？

浜崎 ウチの父親は、ほら、ふにやふにやでてんで頼りなかったから。

風子 そうなんだ。

亜夢瑠 お姉さん、あんまり嬉しくないの？

風子 なんで？

亜夢瑠 悲しい顔してる。

風子 ええ?! そう?!

亜夢瑠 結婚式なのに悲しいの？

風子 おかしいよね？

亜夢瑠 結婚式って、人生で一番幸せな日ってお母さん言ってた。

風子 あら。

亜夢瑠 とってもとっても幸せな日だって。

風子 そうね。そうだよ。悲しい顔してたら、ダメだよ。

亜夢瑠 うん。だってその後は暗く長い現実が待ってるんだから。

マナ え?! …!

亜夢瑠 ってお母さん言ってた。

風子 へえ…。

浜崎 あらやだ。ちよっと、お母さんそんなこと言った?!

会場のほうから喝采が聞こえる。

遠藤 桂剥き、終わったみたいですよ!

赤石 よろしいですか?

耕作 風子、

風子 …お父さん。

間。

風子 長い間、お世話になりました。

間。

凧子 さよなら。…お願いします。

赤石 (うなづく)

遠藤 (手で扉の向こうの会場に合図)

声(橋渡) お待たせいたしました。新郎新婦のご入場です。皆様、大きな拍手でお出迎えてください！！

音楽が盛大に流れる。

遠藤と赤石が扉を開ける。ハナと亜夢瑠に先導されて、耕作と凧子が会場に進んでいく。出て行った後、浜崎も付いて行く。遠藤と赤石も会場へ。

間。

神田川が長くなった反物状の大根を持って戻ってくる。さあやるぞ、と構えたところで良親のいる小部屋を見る。

神田川 ……泣くんだったら、娘の前で泣いてやったらどうだい。

良親、出てくる。ふらふらと力なく歩き、扉越しに会場を見る。

声(橋渡) ここで、改めて新郎と新婦のご紹介をさせていただきます。

神田川 綺麗な花嫁さんだ。

良親 当たり前だ。

神田川 ほう。

良親 俺の…娘だぞ。

神田川 ……

良親 あんた…この人間じゃないな？

神田川 しがない雇われの身の、流れの板前でさあ。

良親 包丁一本で、てやつか。

神田川 まあ、そんなところだ。

声(橋渡) それでは、新郎新婦のお二人にとって、初めての共同作業を行っていただきます。ましよう。ウエディングケーキ、入刀です！

神田川 今ならまだ戻れるんじゃないかい？何事もなかったみたいに。

良親 ……

声(橋渡)

続いて、乾杯のご発声を、新郎新婦の恩師であり、更にご両家の多くの方を教員としてご指導され、新婦凧子さんの勤め先である小学校では長く校長先生をお務めになられた坂本鉄心(てっしん)様からいただきましたと思います。

坂本様、お願いします。

声(坂本)

えー、犬川凧子くん、猿田耕作くん、並びにご両家の皆様、本日はお日柄も

神田川 よく、若いお二人の門出に、相応しい日になりました…  
なんだってそんなに出席したくないんだ？一度は認めたらろう、結婚。  
良親 ああ。  
神田川 急に気が変わったのか？  
良親 流れ者にやわかんねえよ。  
神田川 そうかい？

会場から乾杯の声。

良親 毎日、毎日、海ばかり見ていた。海は毎日違う。目を離す訳にはいかなかった。  
神田川 …。  
良親 「結婚したい」って言われるまで、娘がそんなに成長していることに気づいても  
いなかった。  
声（橋渡） さあ続いて、お二人からの幸せのお裾分け、ブーケトスを行いたいと思いま  
す。

良親 もう?!  
神田川 誰かさんのせいでスタートが押したからな。  
声（橋渡） どうぞ、独身の女性の方々は会場後方にお集まりください。よろしいでしょ  
うか？さあ凧子さん、思い切って、どうぞ！

神田川 違うな。  
良親 なにが？  
神田川 あんたは気づかなかったんじゃない。目を逸らしていただけだ。だから、式の最  
中になって怖くなった。

良親 …。  
声（橋渡） さあ、子供の時からお父様に鍛えられた凧子さんのピッチングで、ブーケを  
投げていただきましょう。さあ、どうぞ！！

歓声が聞こえる。  
扉が開く。転がってくるボール。グローブをはめた幼少時の凧子出てくる。ボ  
ールを拾う。

凧子 お父さん、何これ？！  
良親 誕生日プレゼントだ。  
凧子 リカちゃん人形は？  
良親 こっちのほうがいいだろ。お父さんとキャッチボールできるし。  
凧子 ええ、お人形さんが良かった。  
良親 お父さんと遊べるからボールの方がいいだろ？  
凧子 お父さんが一緒にお人形で遊んでよ。  
良親 ええ。

凧子 いったもキャッチボールとか、ヒーローごっことか。お父さんがやりたい遊びば  
っかりじゃない。  
良親 なんだ、ヒーローごっこも嫌いか？

凧子 だって、いつつも私が悪者なんだもん。普通のお家は、お父さんが悪者をやつてくれるってみんな言ってたよ。

良親 そう言うなよ。かっこいいお父さんで嬉しいだろ？ヒーローだぞ？

凧子 結局お父さんが満足したいだけなんだよね。

良親 そう言うなよ。

凧子 私はお父さんの遊び相手じゃないの。

良親 そう言うなって。ほら、ボール投げてみる、思い切り。

凧子 もう。…えい（投げる。飛ばず転がる）。

良親 はは、凧子、そうじゃない。投げる時は、こう（と、見本を見せるが玉は会場に

飛んで行ってしまふ）。

凧子 あー！お父さんの下手くそ！！もう！！

良親 ごめんごめん。

凧子 やっぱりリカちゃん人形が良かった〜！

子供の凧子、追って厨房を出てつてしまふ。

良親 （見送り）そう言うなよ、凧子。

会場からブーケが飛んでくる。

追って入ってくる。草子、木村、西野。草子がブーケを取る。慌てて隠れる良親。

草子 しやー！！

橋渡 （会場からやってきて）おめでとうございます！！見事、新郎のお姉さんがブー

ケをゲットいたしました！

草子 遊びじゃないんだよ！！

木村 そんな本気にならなくても…。

西野 こ、こわい…。

橋渡と3人、会場に戻る。

おそろおそろ出てくる良親。

神田川 このままだと、あつという間に終わっちゃうんじゃないか？早いとこ謝って参加

したらどうだ？

良親 …余計なお世話だよ。

神田川 違いねえ。俺も準備しないとな。

明子入ってくる。

明子 そろそろ戻る気になった？

明子 こっちの身にもなってよ。一人で皆さんにお酒注いで回ったんだから。分かってる。

明子 やつと事態を把握したんでしょ。風子を嫁にやる、って実感が湧いてきたわけだ。

明子 ……ほんと、ぼさつとしてるんだから。人の話、ちゃんと聞いてないからこうなるの。

明子 ……漁協の皆さんとかに挨拶しといたほうが良いんじゃないの？今ならスツと戻れるわよ。私と一緒になら。ビールついで回ってる流れに…。

明子 今更そんなマネできるか。

明子 またそれ。あなたいつつもそう言っつて、もつともつと事態がまずくなつてから「やっぱり」って言うでしょ？今更じゃないの。むしろいつだって今が一番チャンスなの。

明子 ……ね？今なら傷も浅くて済むんだから。

文、入ってくる。

明子 大川さん、…大川君。

明子 ……（はあ）じゃあ、あとはお願いします。

明子 文さんの言葉ならこの人も考えを変えるかもしれません。なので、どうぞ。え？え？

明子 明子、おい。

明子、出て行ってしまおう。

文 ……

文 ……落ち着いた？

文 ……なんか、申し訳ない。みつともないことになってしまつて。気にしないで。って言っちゃ不味いのかもしいれないけど。

文 ……どうかしてたんだ。

文 ……仕方ないよ。娘さんを送りだすんだもの。

文 ………文の時はどうだった？

文 ……おやじさん、結婚を素直に認めてくれたか？

文 ……ううん。

文 ……そうか。

文 ……子供が生まれても、3歳まで会ってくれなかった。

文 ……そんなに？！

文 私もムキになってたから、そっちがその気なら会わなくて良い。って思ってた。母さんが倒れて、それで面倒見にいってるうちに、なし崩し的に友好的になって知らなかった。

文 どこだってそういうものじゃない？何も無い家庭なんて、ないよ。

文 おやじさんは、何が気に入らなかったんだ？勝蔵なんて、土地だって、この町の人間と結婚させたくなかったみたい。

文 (笑) なんで？

文 都会に出て欲しかったみたい。大学行って良いんだぞ、って何回も言われた。

文 …。

文 喜んで出て行く人間も多いだろうけど、上手くないもんだね。

文 なんて出て行かなかった？

文 出て欲しかった？

文 まあな。

文 ひどい。

文 よく言うよ。人を余しておいて。

文 …でも、おかげで明子さんと出会ったじゃない。

文 …。

文 だから、凧子さんという素晴らしい娘もできた。

文 …。

文 不思議なもんだね。私たちが親戚になるなんて。

文 呪いだな。俺は猿田の家に大事なものを奪われっぱなしだ。

文 呪いなんかじゃないでしょ。

文 じゃあなんだよ。

文 奇跡。

文 はあ？

文 奇跡だよ。この町で生まれて、育って、大人になって、家庭を築いて、子供を産んで、育てて、そして、家族が増えて。

文 …。

文 奇跡じゃない？

文 気楽なもんだよ。家族が増える側は。

文 ふふ、そうね。

文 嫁いびりするなよ。

文 失礼ね。自分の心配してなさい。凧子さん、私みたいになったら、本当に会ってくれなくなるわよ。

文 まさか。

文 頑固な子でしょ？誰かさんに似て、強情っぱり。

文 …。

文 謝るなら、今のうちじゃない？

文 文、俺、

文 分かっている。協力するから。

文 扉が開く。木村西野にエスコートされ、お色直しに凧子、退場してくる。後ろに遠藤赤石がついてきて扉を閉める。

文 ほら、チャンス！  
良親 え？…え？！  
文 ちゃんと謝るの！  
木村 あれ？おじさん？！  
西野 凧子、お父さんいるじゃん！  
木村 漁に出てロシアに捕まったって言ってたじゃん！  
良親 そんなこと言ったのか？！  
凧子 説明が面倒で。言えるわけじゃないでしょう？ありのままのこと。  
西野 良かったあ、おじさん無事で。なんでこんな所にいるんですか？  
良親 そ、それは…。  
凧子 じゃあ二人は席に戻って。  
文 凧子、  
良親 凧子さん、  
文 凧子、  
凧子 はい。  
文 お父さんのお話を聞いてあげて、  
凧子 …。  
文 お父さん、改めて伝えたいことがある、つて。  
凧子 ……『お義母さま』、私にとってお父さんは、お母様の旦那さんの勝蔵さんだけです。  
文 凧子さん、  
凧子 時間がないみたいなので。お色直しに行ってきますね。

凧子、去る。遠藤ついて行く。木村西野も戻る。

文 あーあ。ね、言ったでしょう？。  
良親 ……。  
神田川 俺も言ったんだよ。  
文 あら。

耕作、入ってくる。

耕作 お父さん！良かった、出てきてくれたんですね。まだ間に合います。席に来てく  
良親 ださい。(手を取る)  
耕作 (手を外す)  
良親 …お父さん？  
耕作 いかない。  
良親 は？  
耕作 いかない！  
良親 お願います！  
耕作 俺に、娘はもう存在しない！  
文 何言ってるんですか！  
耕作 余計意固地になっちゃった。

良親  
耕作 （風子の去った方に）俺だって……、俺にだって娘なんていないもんね！  
お父さん……！

勝蔵が扉から顔を出す。

勝蔵  
文、ほらご挨拶に回らないと。（言って、すぐ消える）  
今行きます。……犬川くん、よく考えて。先延ばしにしたらますます修復しづらくなるからね……！

文、会場へ戻る。

耕作  
良親 ……お父さんの気持ちは分かります。大切なお嬢さんを送りだすんですから、不安  
なんですよね？

耕作  
良親 ……僕、努力します。お父さんに認めてもらえよう。父の後を継いで、立派な農家  
になります。風子さんと力を合わせて。けして、風子さんを不幸にはしません。

良親  
耕作 僕が全力で、  
違うんだ。  
何が違うんですか、  
君に不満があるとか、許しがたい所があるって問題じゃないんだ。  
じゃあ、

耕作  
良親 ……だから、嫌なんだ。  
は？

耕作  
良親 だから嫌なんだ。  
どこが嫌なんですか。直します。言ってください！  
そこだ。

耕作  
良親 え？  
そういうとこだ。  
ええ？ええええ？！

耕作  
良親 どうしてそんなに真摯なんだ。どうしてそんなにも真面目なんだ。どうしてそう  
簡単に頭を下げられるんだ。  
それは……。  
なんなんだ君は。どうしてそんな聞き分けがいいんだ。なんでこんなわがままな  
ジジイにまで我慢できる？

耕作  
良親 お父さん……。  
私はどうしたらいいんだ。そんな君を前にして私はどうしたらいい？ええ？どう  
もできないじゃないか！真面目だから！真摯だから！  
そんな、

耕作  
赤石 ……お取り込み中失礼いたします。新郎様、この後の進行のご相談ですが。  
………なんでしょう？

耕作  
赤石 余興の時間を少し減らしてみても？  
えええ？！みんな準備してきてくれるのに？！

赤石 テンポよく、進行するためです。その方が皆さん気持ちよく楽しんでいただけるとか。

耕作 そうですか？

赤石 そうです。それについて、ひとつ提案が。

耕作 なんですか？

赤石 移動しながら説明します。お色直しの後は、外からの入場になりますので、こちらへ。

耕作

ちよっと待って。お父さん：仰ることはわかります。こういう言い方も、かんに触るのかもしれないけれど：お願いです。席に戻して下さい。凧子とても寂しそうです。せつかくの披露宴なのに。この後で、キャンドルを灯しに各テーブルを回ります。その時に、何食わぬ顔で席に座っていて下さい。大丈夫です。言葉はなくても、凧子にはそれで伝わるはずですよ。

良親  
耕作

：じゃあ、  
お願いします。

赤石、耕作を連れて去る。

神田川  
良親

立派な結婚相手だと思うがねえ。  
：。

竜樹、やってくる。

竜樹

お兄さん。

良親

おう：。

竜樹

大丈夫ですか？

良親

ああ。心配しないでいい。

竜樹

：お色直しが済んだら、余興を挟んで、フィナーレですよ。

良親

：。

竜樹

良いんですか？本当に終わっちゃいますよ。

会場の中が暗くなる。

竜樹

あ、始まった。

良親

：。

竜樹

お兄さん見ないと。凧子ちゃん綺麗ですよ。行きましょう？

良親

今更、なんて言って戻れば良いんだ。

竜樹

何も言わなくて良いじゃないですか。

良親

あいつ言ったんだ。「私にはもうお父さんはいない」って。

竜樹

それは：、本気じゃないでしょう。

良親

だから、もう良いんだ。



吉田 おい！  
桜井 仕方ねえよ、リーダー。  
斉藤 確かにさっき一回見せちまつてるしさ。  
吉田 お前たち……！くそ！

吉田、良親が入っていたスペースに入ってしまった。

桜井 リーダー！  
赤石 ……ありがとうございます。ご理解、感謝します。

森彦、橋渡を押しながら入ってくる。

森彦 何故じゃ！何故わしの歌がワンコーラスで終わりなんじゃ！！  
橋渡 すみません！時間の都合上そうさせていただきました！！  
森彦 勝手なことをしておって！せっかく1番と2番の間に語りを入れる予定だったのに……！！（懐からものすごい厚みの巻物を取り出す）  
良親 あんなに！？  
橋渡 すみません！仕方ないんです！歌はどうか2次会でたっぷり！！  
森彦 歌がー！わしの歌がー！  
赤石 橋渡くん、次の準備がある、行こう。  
橋渡 失礼します。  
森彦 逃げるなー！若造！！

赤石、橋渡、会場に戻る。  
森彦、桜井、斉藤の3人、厨房でしょんぼり。

神田川 なんだなんだなんだ。ずいぶん賑わってきたな。  
良親 みんな……。  
神田川 あんた一人のわがままの皺寄せか。良い迷惑だな、本当にうるさい！  
神田川 良い加減、出て行ってやれよ。ここは親族の控え室じゃないんだよ。  
良親 俺にだって父親としてのメンツが。  
神田川 メンツが潰れるってか？情けねえな。  
良親 ……あんたにやわからんよ。  
神田川 わかりたくねえや。  
良親 流れ者の、家族のいないあんたにや俺の気持ちは分からねえよ。  
神田川 いるよ。  
良親 ……え？  
神田川 いるよ。俺にだって家族。正確には、いた、だな。  
良親 ……あんた、

神田川 …娘がいたよ。あんたと同じさ。

間。

声（橋渡）

それではここで、新郎新婦から、それぞれのご両親にこれまでを振り返りつつ、感謝の花束を贈呈していただきましょう。それでは新郎新婦のお二人は、こちらにお越しください…。

神田川

俺だって、初めから流れ者だったわけじゃねえ。ちゃんと店を構えて商売してたよ。娘がいてな。俺に似てあんまり出来が良い方じゃなくて、高校を出て、ロクでもない男と一緒になるって言って家を飛び出してっつたよ。

良親

神田川

勘当だ、離縁だって脅してもまるで効き目はなかった。若い二人だ、どうせ二進も三進もいなくなつて親である俺のところを助けを求めに来るだろうとタカを括つていた。でも、何年経つても向こうから連絡が来ることはなかった。おたくと一緒にだよ。俺に似て、強情な娘だった。

良親

神田川

連絡が来ることは、最後までなかった。根負けして俺の方から連絡した時には、夫婦揃つて事故で…

良親

神田川

あんた…。それがきっかけで女房も愛想つかして出てっつたよ。で、流れ流れてこの有様だ。

良親

神田川

後悔してるよ。後悔しない日なんて1日もない。俺があいつを受け入れていけば、認めてやってさえいれば。

良親

神田川

そうしたら、お腹の子供にだって会えたかもしれないのに…。元気に生まれてくれたかもしれないのに。

間。

神田川

俺は、もう会えない、二度と。ずいぶん遠いところに行っちゃった。…あんたは違うだろ？その扉のすぐ向こうにいるんだろ。

良親

神田川

俺は…。何度だって謝りや良いじゃないか。メンツなんて潰れて、かっこ悪いところ見せりや良いじゃないか。家族なんだろ？だから家族なんだろ？

良親

良親、意を決し会場に向かう。扉まで来て、息を深く吸う。

良親

神田川

行ってくる。  
（親指を立て、グッドラック）

声（橋渡）　ちよ！ちよつと、あなた、なにをするんですか！！  
良親　？

と、振り返っていた良親に扉が急に開きぶつかり、奥に押しやられる。  
入ってきたのは竜樹に手を引かれた凧子。後を追って耕作。  
その後ろになんだなんだと付いてくる親族／スタッフ／野次馬たち。扉の影の  
良親には気づかない。

凧子　竜樹おじさん！なに！なんなの一体！

竜樹　感謝の花束贈呈だよ。

凧子　だからそれがなんで！（ハツ）

ここにいるだろう、凧子ちゃんが感謝を捧げる相手は。お兄さん！お兄さんが出  
てこないっていうから、こっちに連れてきましたよ！

凧子　ここにはいません。

竜樹　強がっちゃだめだ。

凧子　本当にいない。

竜樹　凧子ちゃん！！

凧子　！　手紙、書いたんだろう。気持ちを込めて。

竜樹　…。

凧子　読んであげな。

竜樹　なんで私が。

凧子　読んであげるんだ。…お父さん、どうして良いかわからなくなってるんだ。凧子  
ちゃんを失うということ、どう受け止めて良いのか分からないんだ。あの中で、

お父さんはずっと苦しんでる。（指差す）

凧子　…。

竜樹　凧子ちゃんが大切だからこそ、苦しんでるんだ。亀の時や、カラスの時より、ず

つと。

凧子　…。

竜樹　よく考えて。本当に、これでお別れなんだ。

凧子　大げさだよ、竜樹おじさん。

竜樹　大げさじゃないよ。君はこれから、猿田の人間になるんだ。この式が終われば、

凧子　凧子ちゃんはまだ犬川の人間じゃないんだ。

間。

間。

竜樹　さあ。

凧子　…（手紙を取り出す）

凧子、手紙を開き、読み始める。良親の立てこもりスペースに向かって。

凧子

本日は、私たちのためにたくさんの方にお集まりいただき、感謝申し上げます。お疲れのところではございますが、ここで私から両親へ感謝の手紙を読ませていただくことをお許しください。

お父さん、お母さん、今まで側で私のことを見守ってくれて、大事に育ててくれてありがとうございます。小さい時のことを振り返ると色々な思い出が蘇ってきます。私は子どものころは引つ込み思案でした。授業参観とかでも恥ずかしくて手を挙げることができませんでした。そんな私に「自分で話すのが今は苦手でも、それは他人の話をちゃんと聞くことができるということ。だからいずれ恥ずかしくなくなるし上手になるよ」と励ましてくれたお母さん。少しでもいろんな人と話せるようにって漁協に連れていってくれたお父さん。2人のおかげで、学校でも友達が沢山できました。本当に感謝しています。

思春期になると、たくさん喧嘩もしました。反抗もしました。考えてみれば、私はあまりいい娘でも長女でもなかった気がします。

漁師の家に生まれたことが、嫌だったこともありました。風邪をひいて学校を早引けした日。お父さんもお母さんも漁でない家に一人で寝ているのはとても寂しかったです。

中学生になって、自分の時間が欲しくなった私に対して、お父さんは逆に自分と遊ぶことばかり強要しましたね。お父さんが「お父さんと遊んだ時間しか友達と遊ばせない」と言った時は、ちよつと頭がおかしいんじゃないかと思いました。

今思えば、それはお父さんなりの淋しさの表現だったのかもしれないですね。

今なら、私はたくさんたくさん愛されていたんだと分かります。一緒にいてもらえなくても、大きな愛に包まれていたんだと分かります。

お父さん、今まで本当にお世話になりました。お母さん、手のかかるお父さんをお願いしますね。二人でいつまでも仲良く健康に過ごしてください。

最後になりますが、耕作さんのお父さん、お母さん。今日から新しい家族となれることを嬉しく思います。お二人のように仲のいい夫婦を目指していきますので、これからもよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

固唾をのんで見守る一同。

扉が開き、スペースから、吉田が出てくる。全員驚く。

え？…

吉田さん…！

あれ？おかしいな、じゃあお兄さんは？

凧子  
耕作  
竜樹

竜樹に教えるように神田川がみんなの背後の扉を指差す。

振り返る一同。良親、発見される。



耕作 ああ！なんてことだ！悪の秘密結社に花嫁がさらわれた！！  
吉田 (棒読み) はーはっはっは。助けを呼んでも、無駄だ、観念しろ、この世界は、  
耕作 我々悪の秘密結社が支配する、  
耕作 風子！風子ー！  
耕作 エ？エ？  
耕作 風子助けて！助けを求めて！！  
耕作 どうやって？！  
耕作 なんでもいい！「タースケター！」だけでも！  
耕作 タースケター！！  
耕作 (理解した) ふははは！無駄だ無駄だ！  
耕作 (理解した) お前は我々悪の秘密結社の一員となるのだ！  
耕作 (理解した) そうはさせるか！くらえ！ファイヤーパンチ！！  
耕作 (弾きかえす) ふんぬ！！きかないなあ、そんな攻撃じゃあ。  
耕作 よーし僕が！  
耕作 海斗は行っちゃダメ。  
耕作 えー！どうして！？僕やっつけてやる！  
耕作 今度ね、ちゃんとしたヒーローが来るの。  
耕作 ちゃんとしたヒーロー？  
耕作 そう。来るはず。  
耕作 (棒読み) さあ、覚悟をするんだなあ。貴様を改造人間花嫁1号にしてやる。  
耕作 くそー！てやー！  
耕作 (棒読み) ふん！！ (弾きかえす)  
耕作 くそ！俺の花嫁を返せ！  
耕作 ふん！！  
耕作 ダメだ、私たちでは歯が立たない！  
耕作 本当のヒーローが必要だ。彼女のことを、本当に愛しているヒーローが！  
耕作 そんな人間、いるのか？  
耕作 いる！俺以上に彼女を愛しているヒーローが！  
耕作 そんな人物が？！  
耕作 耕作…、  
耕作 お父さん！！  
耕作 …え？  
耕作 お父さん、お願いします！風子を助けてください！  
耕作 耕作君…。  
耕作 お願いします！僕じゃダメなんです！お父さんしかないんです！  
耕作 (風子を見る)  
耕作 お父さん…。お父さん！助けて！  
耕作 待てー！いい！！  
耕作 おおーっと！どこからともなく、ヒーローが現れたああ！！  
耕作 その子を離せ！悪人ども！！  
耕作 ふっふっふ、この花嫁を返して欲しければ、力づくで取り返してみな！！  
耕作 よーし、やってやる！とお！

と、吉田のところに飛びかかる。

吉田　こしやくなあ、  
斎藤　やっつけてやる！  
良親　なにおう！  
凧子　お父さん！

「やあ、やあ、」と何回かの攻防が繰り返され、  
と、突然良親の動きが止まる。

あれ？

お父さん…？

お父さん…？

…違う…？

違う？

お父さん、どうしたの？

凧子…：やっぱり、これはもう俺の役じゃないよ。

お父さん…。

…父さんに出来ることは、ここまでだ。

お父さん、

（突如）はーはっはっは！！この花嫁は、我々悪の秘密結社がいただいた！

えー！！

返して欲しければ、戦ってワシの手から奪い取るがいい！！

お父さん…。

あはは、だせえなあ親父。

本当ね。本当にしようがない。

おじちゃんどうしちやったの？

悪魔がおじさんに乗移ったのよ。

えええ！

どうした？！誰もいないのか！この花嫁がどうなってもいいのかー！？

やるじゃねえか。

犬川君らしい。

待てー！！

なんだ貴様は！！

その花嫁は私のものだ！

なに！？

その花嫁と結婚するものだ！！

…本当か！

本当だ。

証明しろ！

私は…彼女を愛している。

それだけか？！

…幸せにする！

吉田　あれ？  
耕作　お父さん…？  
凧子　お父さん…？  
良親　…違う…？  
耕作　違う？  
凧子　お父さん、どうしたの？  
良親　凧子…：やっぱり、これはもう俺の役じゃないよ。  
凧子　お父さん…。  
良親　…父さんに出来ることは、ここまでだ。  
凧子　お父さん、  
全員　（突如）はーはっはっは！！この花嫁は、我々悪の秘密結社がいただいた！  
良親　えー！！  
耕作　返して欲しければ、戦ってワシの手から奪い取るがいい！！  
良親　お父さん…。  
潮　あはは、だせえなあ親父。  
明子　本当ね。本当にしようがない。  
海斗　おじちゃんどうしちやったの？  
波　悪魔がおじさんに乗移ったのよ。  
海斗　えええ！  
良親　どうした？！誰もいないのか！この花嫁がどうなってもいいのかー！？  
勝蔵　やるじゃねえか。  
文　犬川君らしい。  
耕作　待てー！！  
良親　なんだ貴様は！！  
耕作　その花嫁は私のものだ！  
良親　なに！？  
耕作　その花嫁と結婚するものだ！！  
良親　…本当か！  
耕作　本当だ。  
良親　証明しろ！  
耕作　私は…彼女を愛している。  
良親　それだけか？！  
耕作　…幸せにする！

良親 それだけか？！

耕作 生涯共に生きていく！

良親 それだけか？！

耕作 この町で家族になる！

良親 それだけか？！

耕作 ……喧嘩もする！

良親 それだけか？！

耕作 なんでも話し合う！！

良親 それだけか？！

耕作 手をつなぐ！！

良親 それだけか？！

耕作 おう。

耕作 なにがあっても信じる！！

良親 良親 それだけか？！

耕作 世界中を敵に回しても信じる！！

良親 それだけか？！

耕作 ……種を蒔く。ウチの、見渡す一面の畑の端から端まで。春作業の終わり、畑に

まっすぐなラインが何本も出来る。夕日に照らされたその畑を見ると幸せな気持ちになる。芽が出る前のその姿が、俺が一番好きだ。誇らしい気持ちになる。心から生きてる気がする。その光景と一緒に見る！

……。

耕作 ずっとずっと、凧子と一緒に見る！

……。

凧子

耕作

良親

間。

良親、ゆっくりと凧子を離す。

凧子

お父さん。

良親

幸せになりなさい。

凧子、うずくまり泣き崩れる。

耕作、凧子の元へ。

潮

変な結婚式。

マナ

そんなことないよ。

潮

そうかあ？

マナ

いい結婚式だよ。

明子

とんだ披露宴。

勝蔵

良親らしい。

マナ

私、将来先生みたいなお嫁さんになる。

潮

え？！

マナ

みんなに祝福される、綺麗な花嫁さんに。

橋渡  
森彦  
橋渡  
森彦  
橋渡

(ハッ) おじいさん、歌！  
え？！  
歌だよ、歌！今こそおじいさんの歌で祝福しないと！  
「バタフライ」今日は「今ま」で「の」  
選曲若い！！

森彦が歌い、それにみんな声を重ねていく。  
音楽が流れる。木村カエラ『バタフライ』  
明子、良親の元へ。良親、泣く。  
明かりがゆっくりと消えていく中、神田川だけ残り全員去る。

再び明かりがつく。神田川がいる。  
良親と明子が現れる。

良親 どうも。  
神田川 おう。  
良親 お世話になりました。  
神田川 世話しちゃいねえよ。  
良親 その：なんていうか：  
神田川 気にするな。  
良親 今度、飲みましょう。ウチに遊びに来てください。やかましいかもしれないけど。  
神田川 ありがたいよ。まあ、暇があったら考えるわ。  
良親 忙しいんですか？  
神田川 まあ、なあ。  
声(亜夢瑠) おじいちゃん！！！！

亜夢瑠、飛び込んでくる。

神田川 こらこら、亜夢瑠、ここは危ないから入っちゃダメだと言ったろう。  
亜夢瑠 おじいちゃんまだ帰れないの？！  
神田川 今日はこのあとお通夜もあるから、おじいちゃんまだ帰れないなあ、  
亜夢瑠 えー！やだ！亜夢瑠おじいちゃんと一緒に帰るー！  
神田川 もう！そんなこといっておじいちゃんをこまらせないでよ！  
明子 ……。  
良親 ……あれ？

浜崎入ってくる。

浜崎 お父さん！亜夢瑠を甘やかさないでいつも言ってるでしょう！！

神田川 ご、ごめん。  
浜崎 お父さんが甘やかすから亜夢瑠がどんどんワガママになるんじゃない！  
亜夢瑠 えーん（泣く）。  
神田川 おー、よちよち、だいじょうぶでちゅよ、お母さん怒ったのは亜夢瑠ちゃんじゃないからね！  
浜崎 またそういう！…あら、  
良親 どうも…今日はすみません。  
浜崎 いえいえ。ほら、亜夢瑠先帰るわよ。  
良親 あの…、  
浜崎 はい？  
良親 親子？  
浜崎 ？はい。そうですけど。  
良親 お孫さん、  
浜崎 はい。…なんか吹き込まれました？  
良親 え？  
浜崎 すみません、この人、うちの父すぐに嘘つくんです。嘘っていうか、ホラ話っていうか。すぐに話を大きくしたがるんです。気をつけて下さい。  
良親 ホラ。  
浜崎 はい。お父さん、変なこと言ってまた騒ぎ起こしたりしないでよ！ここでも働かせてもらえなくなったら次どうすんの？！せっかく調理師免許とったのに。  
良親 調理師免許、  
明子 はい。どこで働いても続かないから、最近資格とったんです。  
良親 …。  
浜崎 …。  
良親 …。  
明子 …。  
良親 …。

浜崎、帰ろうとして振り返る。

浜崎 あ…今日は本当におめでとうございます。

亜夢瑠 バイバイ。

明子 …。

良親 …。

浜崎、亜夢瑠と帰る。

明子 …。  
良親 …。  
明子 …。  
良親 …。

明子、良親去ろうとする。

神田川 待ちな。

明子&良親 …？

神田川 おめでとうございます。

明子 ありがとうございます。

良親 どうもありがとうございます。

終

弦巻楽団 上演戯曲集「結婚しようよ」  
作：弦巻啓太

発行：一般社団法人 劇団弦巻楽団

〒064-0811

札幌市中央区南 11 条西 9 丁目 4-1  
あけぼのアート&コミュニティセンター 8 号室

TEL：090-2872-9209

Mail：tsurumakigakudan@yahoo.co.jp

<上演希望の際は、必ず上記へお問い合わせください>

2020 年 3 月 18 日発行